長野県上田染谷丘高等学校

令和７年度　学校自己評価表

学校教育目標	向学の気風あふれる活気に満ちた学校づくりを通して、学力・情操・身体の調和ある発達を図り、将来の地域社会を担い、国際社会の平和と発展に寄与できる人間を育成する。

中・長期目標	I.　生徒の実態に即した授業を実施し、主体的な取り組みを促すことで自ら課題を解決する力を養い、生徒一人ひとりの自己実現を目標とした進路指導を行う。 II.　探究的な学びや国際交流等の活動を通して、幅広く教養を深めるとともに、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を養い、地域や国際社会のリーダーとして活躍できる人間を育成する。 III. 学友会活動・班活動・清掃活動等を通して、自主的に考え、他者と協力して行動できる生徒を育成する。 IV.　人権意識を涵養し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりを推進する。 V.　交通安全・交通マナーに対する意識を高め、自転車の安全利用の徹底を図る。

今年度の重点目標 （中・長期目標に即し、今年度特に重点的に取り組む目標）	1.　「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指して授業を実践する。さらに新たな指導方法を検討する。また、ICT を有効に活用した授業展開ならびにオンラインによる授業配信をはじめとする、生徒の学習支援を効果的に行う。「探究的な学び」を日常の授業の中に位置づけつつ、全校で探究活動の充実を図っていく。→Ⅰ、Ⅱ
	2.　生徒の健康状態に留意し、学習と班活動等さまざまな活動の調和がとれた日常生活が送れるよう支援する。整理整頓、清掃の徹底による校内環境整備に努めると共に、交通安全・交通マナーに対する意識を高め、自転車の安全利用を徹底し，交通事故を防止する。また、人権意識を涵養し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりの推進に努める。　→　Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
	3.　国際教養科を中心に、国際交流活動を活発に実施し、他校や他団体と連携して地域貢献および国際貢献につながる活動を行う。国際教養科の特色を活かしながら、全校生徒が、積極的に国際交流に参加できるような環境づくりに努める。　→　Ⅱ

個別評価項目

＜教育活動＞

		評価項目	評価の観点
教育計画	Ⅰ	学習目標の明確化、計画性(教)(生)	・　生徒がシラバス及び日常の授業を通して、目標を持って計画的に学習するように支援できたか。
	評価	授業進度や理解が深まるよう工夫した学習内容などについて、概ね生徒が適切であると回答しており、生徒が目標を持って計画的に学習に取り組む支援をすることができた。1学年では考査前に学習計画を立て、学習の進め方を生徒個人で管理し、主体的が学習に取り組めるよう、指導した。考査後に学習の自己評価をし、担任からの助言を加えた。	
	Ⅰ	コース選択、科目選択における支援(教)(生)	・　コースや科目の特徴が理解できるような支援をおこない、生徒の適正や進路実現に沿う選択をすることができたか。
	評価	1学年は2年次の科目選択に関わって、生徒の適正や進路をふまえて丁寧に指導することができた。2学年は科目選択に向けて大学、学部、学科の研究など進路探究をすることで、進路選択を促し、科目選択説明会、夢ナビライブ、三者懇談会などを通して科目選択を支援することができた。3年生は前期特編授業を 50 分授業に合わせた時間割で構成し、各教科でより効果的な問題演習を行えた。	

	Ⅱ	国際交流活動への参加意欲、世界の多様な文化に対する生徒の興味・関心を高め、豊かな国際感覚及び国際社会に貢献できる力の育成 (教)(生)	◎　国際交流活動に参加しようとする意欲、世界の多様な文化に対する興味・関心を高めることができたか。 ◎　国際交流活動を通して、国際社会に対する自身の意見や考えを持ち、それを表現することができたか。 ◎　地域貢献、国際貢献につながる活動を行うことができたか。
	評価	2年国際教養科の「台湾研修旅行」(9/29-10/2)、オーストラリア語学研修(3/4-3/17)、を通して国際感覚を身に付ける機会を提供できた。特に台湾では姉妹校生徒との交流も持て、異文化理解を進め、国際貢献につながる有意義な事業となった。全校生徒対象に前年度語学研修等海外活動報告会を行い、経験者の体験を共有できたことも、国際交流活動への全校生徒の意識向上のために有益であった。県企画の高校生海外留学支援事業「つばさプロジェクト」を全校生徒に紹介し、多くの生徒が応募し、県の言うところの「海外留学はじめの一歩」を踏み出せた生徒がいたことは大変ありがたいと感じている(留学先:韓国、アメリカ、カンボジア、ベトナム、台湾)。また、国際教養科の特色ある行事「イングリッシュキャンプ(1年生)」、「イングリッシュデイ(2年生)」を継続して運営することは、その行事に至るまでの学習過程も含め、本校国際教養科の特色となり続け、国際交流活動への参加意欲、異文化理解、国際感覚の涵養に資する活動となっている。1学年は日々の生活や授業の中で多様性を重んじる感覚を養うように指導することができた。	
教科・学習指導	Ⅰ	授業方法や授業形態の研究および工夫（教）（生）	◎　生徒の実態や学習環境に即した授業内容を工夫し、基礎基本を定着させるとともに応用力をつけさせる指導ができたか。探究的な学びの授業展開ができたか。電子黒板や ICT の適切な活用ができたか。
	評価	１学年では探究学習を通して、主体的に SDGs への方向性や地域課題に対する考えを明確にさせることができた。２学年は４月から木曜日の SHR で英語の小テストを実施してきたのに加え、修学旅行後から英語と数学の問題集を解くことを火水金に設定し、基礎基本の定着を図り、学習する雰囲気を高めることができた。また、１年次から継続している毎週月曜日の数学の小テストも基礎力の向上に貢献している。学習指導委員会としては授業や探究活動における ICT の活用を充実させることによって、基礎基本や応用力が身につく指導ができた。個々のスライド作成など含めプレゼンテーション力が向上した。	
	Ⅰ	自己管理能力および探究心の育成（教）	・　自律的な学習習慣および生徒自らが意欲的に学べるための支援をすることができたか。
	評価	１学年は家庭学習時間の管理をさせることにより、家庭学習の充実をはかるように指導した。２学年は考査２週間前からタイムラインマーカーに記録し担任に提出することにより、家庭学習に取り組み、より努力するように声掛けをすることができた。学習指導委員会としては各教科における授業・課題・小テストの実施や、家庭学習徹底週間、新たに始めたテスト範囲の一元化によって自律的な学習習慣を養うための支援ができた。また、各学年における探究活動を通して生徒自らが課題解決に向けて主体的に取り組む力を醸成することができた。	
	Ⅰ	授業以外での支援（教）（生）	・　生徒の学習状況に応じた補習や教材・授業の配信を研究・計画し、生徒にとって意義のある補習や家庭学習の支援ができたか。
	評価	１学年は進路指導係などとも連携し、授業教材を随時配信して、効率よい学習のための支援を行った。２学年では定期考査の追試、補習等により底上げをすることができた。また、スタディサプリの活用により授業の補完としてタブレットの活用をすすめることができた。学習指導委員会としては朝、懇談期間、夏季休業中補習、３年生対象の特編授業など生徒の状況や希望に沿って実施し支援した。スタディサプリを推奨し教材の配信や解説動画の周知を行った。	

<table>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">進路指導係では本年度より全学年で学習支援ツールのスタディサプリを導入して活用してきた。年間を通して配信計画を策定し、よりよい活用支援ができるよう取り組んでいく。１学年では学習時間の記録を奨励することで自己管理を含めた学習習慣の定着に努めた。特に平日は英語と数学で計２時間学習することを徹底すべく、年度当初から呼びかけた。来年度も継続して支援していく。２学年は朝の SHR の時間は、曜日毎に教科を指定し学習する取り組みが定着して来た。様々な情報発信も心掛け、修学旅行以降少しずつ学習に対する意欲が上がって来ている生徒が増えて来ており、新しい問題集を購入して持ち歩く生徒の姿も増えてきた。一方で、それらの生徒が核となって学年がまとまるというレベルには達してはおらず、学習の到達度が定量的な指標に表れるにように継続して支援していく。３学年についてはスタディサプリのアクティブ率は一定水準を保っており、２年次からの支援が３年次に効果として現れたと考えている。朝．放課後補習を４月より全体計画を組むことで、生徒への参加を促し、学習意識の向上に寄与できたと考えている。一方、補習希望の集約や計画に時間を要した点は課題である。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">進路指導</td><td>Ⅰ</td><td>学年や教科間の連携および３年間の連続性（教）</td><td>・ 学年間および教科・全職員の情報交換を密にし、その上で３年間の進路指導の継続性をはかることができたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">１学年は上級学年で進めてきた指導を踏襲しながら、必要な情報交換につとめた。しかし、まだ不十分なところがあり、改善を要する。２学年は２年次に情報の授業がないため、共通テストチャレンジに情報の受験を設定し、それに向けての学習と復習により対策の必要性の動機づけとした。昨年度までの取り組みを踏まえ、継続性を持った進路指導計画を策定し、指導にあたることができた。職員間の情報共有は進路指導通信や掲示板・職員会議等で昨年より機会を拡充することができた。模試の結果を共有し、学年の課題点を教科間で共有した。係としては１学年では非認知能力のアセスメントとして学びみらいパスを年度初めに受験し、生徒の適正など生徒理解の一助とし面談で活用し、生徒対象のフィードバックも行った。計画通りの活用頻度とならなかったことが課題であり、より実現可能な計画を立案していきたい。模試に際してはこれまでの反省をいかし、過去問演習、模試受験、自己採点のサイクルを作ることができた。２学年では進路実現の準備に資するよう、進路指導通信を頻度高く配信し、LHR の時間を活用して進路指導係から直接伝える場面を拡充した。昨年度末から家庭学習に対して 講演会・ワークショップを継続的に実施してきた。３学年の補習計画に際し、進路係として補習の全体計画を組むことで他教科での取り組みを見える化し、各学期における学習の科目バランスを図ることができた。本年度の各学年の取り組みを体系化して、次年度にも引き継いでいきたい。</td></tr>
<tr><td>Ⅰ</td><td>面談や通信を介しての支援（教）（生）</td><td>・ 集団および生徒個々の実態を把握し、希望実現に向けて定期的な情報提供やアドバイスができたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">各学年とも進路通信、学年通信により大学や入試制度など多くの情報を提供し、進路選択を支援することができた。３学年では数多くの面談を定期的にきめ細やかに実施して進路希望実現に向けて生徒支援を行うことができた。生徒個々の実態を把握するため、個人面談を計画通り実施することができた。進路通信を継続的に発行することで情報提供を行うことができた。学年によって配信頻度に差が生じていること、保護者への情報発信の方法について改善していきたい。１学年は学習方法、模擬試験や文理選択について情報発信に努めた。２学年の懇談会で模試のデータなどを活用してより具体的な情報を提供できる形で実施できた。進路通信は、内容の精査が不十分で情報過多になっている側面もあるが、情報発信を続け、意識づけにはなっていると考える。３学年では例年通り５月の担任面談および７月の保護者懇談を通じて進学先や入試形式の共有を図った。進路通信は一度に掲載する内容を精査し、みやすいレイアウトでの発行を心がけた。1 年間で 13 号発行し、特に運動班の県大会集合後に１週間毎日通信を発行することで進路への切り替えを意識させることができた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4"></td><td>Ⅰ</td><td>外部講師や卒業生による講演・ワークショップの充実（教）（生）</td><td>・　生徒がより具体的に自らの進路を考え、行動するきっかけとなるように、講師の人選と実施のタイミングを考慮できたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">１学年は探究活動や進路学習などで外部講師からの指導をいただいた。計画通りに進めることができた。２学年は３年間の進路計画に基づいて進路講話や夢ナビライブへの参加などの企画しすすめることができた。３年生は卒業生による進路講演会は生徒にとって実体験に基づく内容で生徒にとって有効なアドバイスになった。　前年度までの反省を踏まえ、講演内容と講師の人選について考慮することができた。1 学年では学びみらい PASS の結果をうけたワークショップを 6 月に実施。自己理解として各自の得意を把握し、周囲と共有しながら高校生活のどのような場面で伸ばしていけるかを考えた。
２学年では前期に大学生の就職支援を主に行う企業から、大卒後の就職先という逆転の発想で大学選びをするという観点で講演を行った。オブラートに包んだような表現が多く、確信には触れずに、生徒からも「もう少し具体的な話が聞きたかった」という感想が多い講演会になってしまった。その反省から、その後の講演については、本校職員が日頃必要と感じている事、生徒から「教えて欲しい」とリクエストがあった事などをピンポイントに取り上げて話をしている。本校卒業生の話が生徒にとっても身近であり、今年度は実施できていないが、本校卒業生の講話などは積極的に活用して行きたい。３学年では４月に河合塾、８月に昨年の卒業生による講演を実施した。４月の講演会については、昨年 11 月に実施した講演時の演者と同一にすることで、内容に齟齬が出ないように留意しつつ、より受験に向けて学習内容や進路意識を向上させることを目的とした。卒業生による講演については、入試形式および進学先について多岐にわたるように調整し、夏休み以降に受験生が実施すべき取り組みについて経験に基づいたアドバイスを得た。特に、受験規模が全国であることを再認識させ、模試などにおける現状分析の重要性を理解させるに至った。　１，２学年については年度内に新たに卒業生講話を計画中。学習意欲の向上、進路意識の涵養に資するものとできればと考えている。</td></tr>
<tr><td>Ⅰ</td><td>キャリア教育と進路実現（教）</td><td>・　大学見学や職業体験及び、学問・職業研究を通じて、自己理解や社会貢献まで見据えた将来の展望を持ち、その実現に向け進んで学習に取り組むための指導ができたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">１学年は大学見学や社会人講演会を通して、進路や職業に関する意識を高めることができた。進路指導係では職業体験についてはおおむね昨年並みの実施機会を計画することができた。複数回参加する生徒があった一方で、参加人数については十数名にとどまっている。より参加しやすい募集形態がとれないか模索していきたい。1 学年は自己理解活動の充実を目標に取り組んだ。学びみらい PASS による非認知能力の把握や職業適性検査の実施を通して潜在的な部分について認知させ、自己理解を深める支援を行うことができた。例年よりも早い夏季休業前に学問・分野研究に取り組み始め、10 月の大学見学で将来学ぶ環境を知る機会を作ることができた。探究活動とのつながりをより深め、相乗効果がえられるように計画していきたい。2 学年では前述のように大学での専攻と将来の仕事を意識させる取り組みをしたり、探究の時間での取り組みと将来専攻すると思われる学問との繋がりを考えさせたりした。それに基づき、自分が何に興味があり、何がしたくて、将来それを生かしてどのように社会に対する貢献ができるかを考えて進路を検討するように取り組んだ。　ねらい通りとならなかった部分を次年度以降改善していきたい。3 学年ではより具体的な進路候補を早期に検討できるよう、７月の保護者懇談時に、志望大学の入試形態や入試時期についてまとめさた。夏以降の学習計画を明確に捉えられるように取り組めたと考えている。また、総合型選抜や学校推薦型選抜に関して、各教員の専門分野を意識した個別指導の割り振りを行い、生徒の自己理解や社会課題の捉え方を醸成することができた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">学友会</td><td>Ⅲ</td><td>学友会・班活動等、生徒の自主活動への支援とその活性化（教）（生）</td><td>◎ 学友会活動・班活動を通して、自ら考え他者と協働して主体的に行動できるよう職員間で連携して支援できたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">１学年では班活動への加入を勧め、より充実した人間関係を構築するための支援ができた。２学年は３年生から学友会を引き継ぎ、新学友会を発足するにあたり、生徒が自ら考え主体的に行動できるように支援できた。発足後も、いくつかの企画を自主的に計画して実現するための支援ができた。学友会係として、生徒が班活動に進んで取り組めるよう支援した。生徒自ら考えた各種企画の実施において、職員間で連携して支援することができた。生徒間および係職員間で話し合いの機会を多く持ち、行事や日々の学校生活に生徒の意見を反映できるよう努めた。染谷祭に向けての準備、活動への支援を行った。今年度の取り組みとして、以下の事業をおこなった。
・県立高校特色化推進事業採用　校内緑化事業【中庭に花を咲かせよう！プロジェクト】中庭花壇の改修・整備・発信・生徒自ら行う学習環境整美事業採用　【生徒発　気候危機突破プロジェクト】における教室の断熱施工工事</td></tr>
<tr><td rowspan="5">生徒支援</td><td>Ⅰ</td><td>生徒の生活習慣の確立（教）（生）</td><td>・ 生徒の基本的な生活習慣の確立につながるような支援を職員が行い、個々の生徒が高校生として基本的な生活習慣を身につけることができたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">１学年は「場を清め、時を守り、礼を尽くす」というスローガンを提唱したが、全体的には生徒は良く取り組んでいると評価する。２学年は朝の SHR の開始時間の徹底、授業の開始に備える意識の定着を支援し、行動につなげることができた。３学年は学年目標である凡事徹底を最終学年まで貫きとおし、あいさつや清掃など取り組むことができた。生徒支援係としては職員による日常的な声かけや指導を通して、生活リズムや身だしなみ等の基本的習慣の定着を図った。個々に差はあるものの、多くの生徒が高校生として必要な生活習慣を意識し、概ね身につけることができた。</td></tr>
<tr><td>Ⅰ
Ⅳ</td><td>生徒理解を基盤とした生徒指導と相談体制の整備・充実（教）（生）</td><td>・ 一人一人の生徒の実態について、職員が理解し、適切な支援を行えたか。
・ いじめの兆候を見逃さないなど、生徒の実態把握に努めることができたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">１学年では個別には様々な人間関係において支援が必要な場面があったが、他の部署にその支援を任せきりになってしまった場面があり、他の部署とも連携する必要があったと考えられる。２学年は年２回の生活実態調査を実施した結果を生かして、懇談や声掛けに活用して、人間関係のトラブルに対処したり、未然に防ぐことができた。その結果、安心な学校づくりに努めることができた。生徒支援係としては日常の観察や情報共有を通して、生徒一人一人の状況理解に努め、必要に応じた支援を行った。いじめに関しては事案発生後、関係生徒への丁寧な聞き取りと、組織的な対応を行うことができた。</td></tr>
<tr><td>Ⅴ</td><td>交通安全マナーの育成</td><td>◎ 交通安全教室を実施するとともに、機会あるごとに交通安全の呼びかけ等を行い、特に自転車のマナーを向上させ、事故防止を図れたか。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">１学年は交通事故を未然に防ぐための指導は進めたが、自転車の通行マナーの欠如など、実態が改善されないこともあった。２学年は交通安全や交通マナーの意識向上を何度も啓発し、大きな事故を防ぐことができた。自転車のヘルメット着用率のさらなる向上は課題である。生徒支援係としては交通安全教室の実施や、機会あるごとの注意喚起、校外での交通安全指導を年間通して行い、自転車マナーの向上に努めた。しかし、地域からの指摘や事故も見られ、十分な改善には至らず、引き続き継続的な指導が必要である。</td></tr>
</table>

＜学校運営＞

地域・保護者との連携	Ⅰ Ⅲ	学校 Web サイトによる情報発信 （教）（生）（保）（地）	◎　授業活動や PTA 活動および学友会や班活動の情報や成果を学校 Web サイトで紹介し、学校の様子を伝えることができたか。
	評価	配信頻度は高く、日々の活動を配信することができた。次年度は学校ＨＰがリニューアルされるので、さらに多面的で魅力的な情報発信に取り組んでいきたい。１学年は必要に応じて学年からの発信を行った。情報を精選して伝達することができた。	
	Ⅲ	公開授業および体験入学の実施 （教）（生）（保）（地）	◎　公開授業、体験入学などを通して、保護者や地域住民・中学生などに、本校に対する関心を高めてもらうことができたか。
	評価	公開授業を５月と 10 月に実施し、５月 506 名、10 月 184 名と中学生を中心に多くの参観者が来校した。７月の体験入学には 38 の中学校から 641 名、保護者・教員 104 名の参加者があった。地域の方々や中学生の本校に対する関心は強いので、今後もタイムリーに情報発信を行いたい。１学年では十分にできたと考えている。	
	Ⅰ	保護者への進路情報の提供 （教）（生）（保）	・　保護者が家庭で生徒の進路を考えることにつながるような情報提供ができたか。
	評価	各学年とも学年通信・進路通信・保護者懇談会を通して、家庭への情報提供を図ってきた。オクレンジャー等による情報提供を望む声があるので、検討していきたい。進路指導係としては進路指導通信や保護者懇談会、PTA 総会時の進路講演会を通じて情報提供をすることができた。しかしながら、進路指導通信の発信方法については研究していく必要性を強く感じている。進路情報に限らず学校からの情報提供全般に共通した課題と捉えており、来年度具体的に新たな施策が打てるように準備していきたい。PTA 総会時の進路講演会について、内容をより最近の進路実現を取り巻く環境の変化に即した内容にしていきたいと考えている。	
研修	Ⅰ	校内研修の推進（教）	◎　授業方法や ICT の活用等に関する研修会を実施し、授業改善並びに生徒の学習支援に役立てることができたか。
	評価	校内で授業互見週間を設定し、授業改善に役立てることができた。個人で互見をするのはなかなか難しいが、学校として統一して期間を設けることで一つの契機になった。進路指導係としては教科指導力向上に資するよう、外部講師による受験指導研修を国・数・英について実施したり、全教職員対象の小論文指導研究会を実施したりすることができた。ICT の活用については授業で活用しているロイロノート(授業支援)、学習支援として活用しているスタディサプリについて、教科ごと授業案の中で有効となる場面で活用できるスキルを身に着けることをねらいとし、教員研修をそれぞれ数回に分けて行った。来年度も継続し、全国の授業実践の研修に発展できる下地を作っていきたい。	
施設・設備	Ⅲ	校内美化の徹底（教）（生）（保）（地）	・　生徒の清掃活動を適切に指導し、環境保全の意識を高めることができたか。
	評価	各学年とも毎日の清掃を全員で協力して、自主的に行動するよう支援することができた。整美係としては清掃活動には自主的・積極的に取り組めていた。ペットボトルやごみの分別等はとても良くできており、分別意識の定着がみられた。ただ、私物の整理整頓は、クラスや個人の差が大きく、完全な美化とはならない面があり、継続指導が今後とも必要である。	

＊評価者凡例＜評価方法＞･･･(教)教員＜教員用個票＞、(生)生徒＜教員がアンケートなどで集約＞、(保)保護者＜保護者向けアンケート＞、(地)地域＜PTA 諸会合、本校へのメール、学校評議員会など＞

＊評価項目のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは、中長期目標のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴに対応している。◎は本年度の重点目標